

小学校第3学年 国語科 学習指導案

期 日 平成22年10月15日（金）第5校時
場 所 益城町立飯野小学校 3年教室
指導者 教諭 佐藤 久美

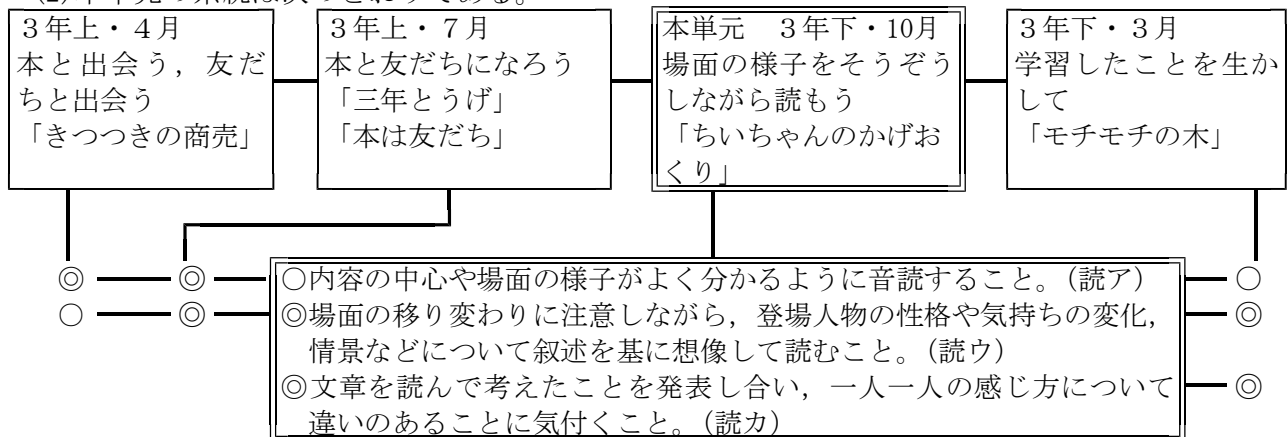
- 1 単元名 場面の様子をそうぞうしながら読もう「ちいちゃんのかげおくり」（光村3年下）
- 2 単元について

(1)「ちいちゃんのかげおくり」は、教科書で最初に出会う戦時中の場面を描いた物語である。現在の豊かな社会生活を生きる児童に、戦争当時の生活を理解させる難しさがある。しかし、場面の情景や人物の言動が生き生きと描かれているだけに、児童はちいちゃんに容易に感情移入し、家族一緒のかげおくりを楽しんだり、ひとりぼっちになった悲しさやさびしさを感じたりしながら読み進めるであろう。また、最後の「それから何十年」経った町の様子は、現代に生きる我々に平和の大切さと、それを守ることの尊さを示してくれている。

本単元は、「場面の様子を想像しながら読む」ことを目標としている。本教材は五つの場面から構成されており、空襲を受けほのおのうずから逃げる途中、母親と離ればなれになってひとりぼっちになってしまう主人公の様子が描かれている。場面の移り変わりを読み取り、場面の様子を想像することで、ちいちゃん的心情に迫ることができることと思われる。

指導にあたっては、学習する場面とそれまでの場面とを比較しながら読ませることで、場面の移り変わりをより明確にとらえさせたい。また、単元の終わりに音読発表会を設定することで、単元の見通しを持たせ、児童の意欲を高めることができると思う。

(2)本単元の系統は次のとおりである。



(3) 本単元に係る児童の実態は次のとおりである。

- 本学級は、男子8名、女子8名、計16名である。元気で、授業にも意欲的に参加する児童が多い。
- 国語に関するアンケート結果より
 - ①国語の授業が好きですか。(好き…2名、だいたい好き…5名、あまり好きではない…7名、好きではない…2名)
 - ②国語の授業はよく分かりますか。(分かる…2名、だいたい分かる…8名、あまり分からない…4名、分からない…2名)
 - ③話の内容や場面の様子がよく分かるように音読をしていますか。(している…4名、だいたいしている…5名、あまりしていない…7名、していない…0名)
 - ④文章を読むときに、登場人物の気持ちを思い浮かべながら読むことができますか。(できている…7名、だいたいできている…2名、あまりできていない…5名、できていない…2名)
- 文中から大事な言葉や文を書き抜くことが苦手な児童が2名いる。サイドラインを引いたり書き込みをする場面では、個別の支援が必要である。
- 自分の考えを根拠を基に説明をしたり、文を基に感想を述べたりすることに苦手意識を持っている児童がいる。
- 学習課題についてみんなで話し合う活動を取り入れているが、進んで意見を発表しているのは、一部の児童に偏りがちである（5名／16名中）。話し合いで考えが深まったり、友達の意見を聞いてなるほどと思った経験があると答えた児童もあまり多くなく、積極的に参加できていない

実態や、話し合いに有用感を感じていない児童もいるという実態があるといえる。

- 「読むこと」について（「ゆうチャレンジ」H21小学校国語第3学年3の問題の活用結果より）

出題のねらい等	正答率(%)	県平均(%)
(1) 中心になる語や文をとらえて文章を正しく読むこと	75.0	76.2
(2) 登場人物の心情を想像しながら読むこと	31.3	32.9
(3) 場面の移り変わりや情景を想像しながら読むこと	32.0	29.0

これらの結果から、場面の移り変わりや情景を想像しながら、登場人物の心情を読み取り、まとめることに課題があるといえる。特に、主人公の心情の変化に気付き、その気持ちを表現する問題で正答率が低かった。

- (4) 指導にあたっては、次の点に留意する。

- 1学期の「きつつきの商売」では、場面の様子がよく伝わるように、会話文や擬音語などに気を付けて音読することを学習している。声の大きさや間の取り方などを工夫して、教科書に「どう読みたいか」の書き込みを行った。本単元では、「どのように読めばよいか」を考えさせる手だてとして、特に場面の様子を想像したり、ちいちゃんの心情を想像させたりする活動を取り入れる。音読を通して、空襲の場面の緊迫した表現や、家族を待ち続けるちいちゃんの心情などを読み取らせたい。
- 授業の中で音読の機会を多く取り入れ、内容の理解を深める。その際、特に地の文・会話文の違いに気をつけて音読させる。また、声の大きさや口形、間の取り方などにも注意させる。
- 心情を深く読み取らせるために、「ちいちゃんと両親」「はじめのかげおくりと最期のかげおくり」「戦争の時代と平和な時代」のように、対比的に読ませるようにする。板書構成を工夫するなどして、視覚的にもとらえやすくしたい。
- 場面の様子や登場人物の心情を読み取らせるために、教科書の本文にサイドラインを引き、気付いたことや考えたことを書き込ませていく。発表の場面でも、「どの文からそう思ったのか」を意識して発表させ、言葉や表現の工夫に気付かせたい。また、お互いの感じ方の違いや考え方の違いに気付かせ、読みを深めたい。
- 場面ごとに、登場人物の心情が分かる部分（「記念写真」「こわい所」「ひとりぼっち」など）を取り上げてノートに視写させることで、大事な言葉や表現に目を向けさせるようにする。また、その部分を手がかりに主人公の気持ちに迫らせていく。
- 初発の感想を交流する場面では、特に自分の感想と友達の感想を比べて同じ部分や違う部分はどこかを考えさせながら聞くように指導する。また、感想がどの叙述に基づいているのかを意識させるようにする。
- 単元の見通しを持たせるために、「音読発表会をしよう」という目標を設定する。場面ごとに読み取った内容を会話文の読み方に生かしていくように声かけをする。
- 終末の場面で、学習の振り返りを行い、話し合いの場面でためになったことや、友だちの考えでなるほどと思ったことなどを記入させる。自分との考え方の違いに目を向けさせることで、新たな表現や語彙を獲得したり、自分の考えをさらに広めたりするきっかけにしたい。また、いろいろな考えを認め合う雰囲気作りを行い、他者を尊重する態度を養いたい。

思考力、判断力、表現力等と言語活動

◎叙述に基づいて想像して読む力

◎自分の考えを表現する力

◎感想を交流することで、自分との考え方や感じ方の違いに気付き、考えを深める力



「C読むこと」【言語活動ア】場面を比べて気付いたことや考えたことを話し合う。

- 感想を交流する場面では、自分の感想との違いを考えながら聞かせ、さらに考えを深めたい。特に、自分の気持ちを表現したり感動を表したりするような語彙を増やすことにつなげたい。また、自分の経験や読書体験、普段考えていることなどに関連づけながら、相手に分かりやすく伝える工夫についても意識させたい。
- 場面や情景の移り変わりとともに変化する登場人物の境遇や状況をとらえるために、地の文や行動、会話などから関連的にとらえていく学習を大切にしていく。その学習を通して感じとった感想や感動を交流させることで想像を広げていきたい。

3 単元の目標と評価規準

単元の目標		◎「場面」についてよりよく理解し、情景や登場人物の様子・心情について叙述に基づいて想像して、戦時下を描いた作品世界にせまる。	
単元を貫く言語活動		◎物語を読み、場面を比べて気付いたことや考えたことを話し合う。	
評価規準	国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
	◎物語を読み、友だちと感想について話し合うことを通して、考え方や感じ方の違いに気づいて自分の読みを見つめ直そうとしている。	◎叙述に即して、場面と場面との移り変わりや情景、登場人物の心情を想像しながら読んでいる。 ◎読み取った内容について自分なりに感想や考えをまとめている。 ◎場面の様子が相手によく分かるように自ら進んで声に出して読んでいる。	◎語句が性質や役割の上で類別があることを理解している。 ○国語辞典の使い方を知り、必要に応じて活用している。 ○学習した漢字を書き、文や文章の中で使っている。

4 指導・評価の工夫（12時間取扱い・本時8時間目）

次	時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 ※言語活動とその留意点	評価項目（方法） ・登場人物の心情を読み取るための大切な言葉
1	1	○全文を通読し、初発の感想を書く。	※感想を交流する。 感じたこと、心に思い浮かべたこと、疑問に思ったこと、みんなで読み深めたいことなどを出し合い、学習の見通しを持たせる。	○進んで感想を発表しようとしている。（観察）
	2	○新出漢字、難語句の学習をする。	○「出征」「しょういだん」「くうしゅう」など、普段聞き慣れない言葉が出てくる。国語辞典を活用して意味を押さえさせる。	○分からない語句を辞書を使って調べたり、新出漢字の練習に進んで取り組んだりしている。（観察・ノート）
	3	「ちいちゃんのかげおくり」の音読発表会をしよう。		
2	4	○音読発表会を開くことを知る。 ○初発の感想から、学習課題を設定する。	○単元の見通しを持たせる。 ○児童から出された意見を場面ごとに整理し、学習課題を作る。	○自分が考えたい課題について発表したり、意見を発表したりしている。（観察）
	5	○一の場面から、場面の様子を読み取り、かげおくりの様子や家族のふれあいの様子を読み取る。	○ちいちゃんと両親の心情を叙述を基に想像させる。 ※これまでの場面と比べて、気付いたことや考えたことを話し合う。	○ちいちゃんと両親の気持ちを想像して読んでいる。（ノート） ○戦争がひどくなっていく状況を読み取っている。（ノート） ・四人は手をつなぎました。 ・「すごおい」 ・「今日の記念写真だなあ」 ・「こわい所」
	6	○二の場面から、ひとりぼっちになってしまうちいちゃんの様子や心情を読み取る。 ・「ちいちゃんは、たくさ	○空襲の様子や、「たくさんの人」の中で「ひとりぼっち」のちいちゃんの姿や心情をとらえさせる。 ○「なぜかというところ」	○空襲で家族と離れ、ひとりぼっちになってしまうちいちゃんの様子や心情を想像して読んでいる。（ノート） ・「お母ちゃん、お母ちゃん」

		んの人たちの中でねむりました」の文を視写し、このときのちいちゃんの気持ちを書く。	理由は～」などの表現を用いて自分の考えを述べ合うようにさせる。	・「たくさんの人の中でねむりました」 ・「ひとりぼっち」
	7	○三の場面から、一人で待ち続けるちいちゃんの様子や心情を読み取る。 ・「こわれかかったぼうくうごう中でねむりました」の文を視写し、このときのちいちゃんの気持ちを書く。	○ひとりぼっちで家族を待ち続けるちいちゃんの様子や心情を叙述を基にとらえさせる。	○家族を待ち続けるちいちゃんの様子や心情を想像して読んでいる。(ノート) ・「ほしいいを、少し食べました」 ・「暗い夜」 ・「こわれかかったぼうくうごう」
2	8 (本時)	○四の場面から、ひとりぼっちでかげおくりをするちいちゃんの様子や心情を読み取る。 ・「ちいちゃんは、ふらふらする足をふみしめて立ち上がると」の文を視写し、このときのちいちゃんの気持ちを書く。	○一の場面のかげおくりの様子を児童自ら想起させたい。 ○「なぜかという～」「その理由は～」などの表現を用いて自分の考えを述べ合うようにさせる。	○一の場面と比べながら、ひとりぼっちでかげおくりをするちいちゃんの心情や、家族に会いたかったちいちゃんの心情などを想像して読んでいる。(ノート) ・「ふらふらする足をふみしめて」
	9	○四の場面から、きらきらわらいだしたちいちゃんの様子や心情を読み取る。	○「きらきらわらいだしました」という言葉の使い方について考えさせる。 ○二の場面の「夏のはじめのある夜」を想起させ、この間に何が起こったかをふりかえらせる。	○これまでの場面と比べながら、ちいちゃんの様子や心情などを想像して読んでいる。(ノート) ・「きらきらわらいだしました」 ・「夏のはじめのある朝」
	10	○これまでの学習を振り返り、比較しながら五の場面の平和な様子を読み取る。	○「ちいちゃんの周りから失われたもの」を順を追って考えることで、場面の移り変わりや追い詰められていったちいちゃんの心情に迫らせる。 ○戦争中との違いや同じ表現に目を向けさせることで、対比的にとらえさせる。	○平和な世の中の様子を、これまでの場面と比較して読み、自分が心に残ったことや考えたことをまとめている。(ノート) ・「青い空」 ・「きらきらわらって」
	11	○音読発表会の準備をする。	○これまで読み取った内容から「どの場面をどのように読むか」を考えさせる。 ○特に会話文の読み方を工夫して読むように助言する。	○心に残った場面について、学習したことを思い出しながら伝えようとしている。(ノート)
3		「ちいちゃんのかげおくり」の音読発表会をしよう。		
	12	○音読発表会を行う。	○自分の発表について自己評価をさせたり、他のグループの発表についてよかったところや気付いたことを出させるようにする。	○場面の様子がよく伝わるように、声の大きさや間の取り方などを工夫して読もうとしている。(観察)

5 本時の学習

- (1) 目標 叙述や言葉に注意しながら、これまでの場面と四の場面を比べながら読み、気づいたことを話し合い想像を広げることができる。
- (2) 展開

過程	学習活動【学習形態】	主な発問・指示等	教師の指導及び評価 ※は言語活動	備考
導入 7分	1 前時を振り返り、本時のめあてをつかむ。 【個人】	T 前時はどんなお話でしたか。 c 家が焼けて無くなっていた。 c ちいちゃんが一人で、お母さんを待っている。 T ちいちゃんの心はどんな言葉から読み取ることができましたか。	○これまでの学習を振り返りながら、場面の移り変わりに気をつけてとらえさせる。 ○【読む能力】 心情を表す語句を押さえる。 ・なくのをやっところえて ・「～はきっと帰ってくるよ」	教材 文
これまでの場面と四の場面を比べて、ちいちゃんのどんな気持ちや様子を思いうかべることができたかを話し合おう。				
	2 四の場面を読む。 【個人】			
展開 30分	3 四の場面とそれまでの場面を比べて、気付いたことを話し合う。 【個人 → グループ → 一斉】 (1) かげおくりの場面を比べて、気付いたことや、想像したこと・考えたことを教科書に書き込む。【個人】 (2) 比べて気付いたことを発表する。 【グループ → 一斉】 4 「ふらふらする足をふみしめて立ち上がる」ちいちゃんの気持ちを想像し、ノートに書く。【個人】 (1) 「ふらふらする足を～」の文をノートに視写する。【個人】 (2) ノートに気持ちを書く。【個人】 (3) 発表する。 【グループ → 一斉】	T これまでの場面と四の場面を比べて、気付いたことはありますか。 T 教科書にサイドラインを引き、想像したことや考えたことを書き込みましょう。 T 気付いたことや考えたことを発表しましょう。 c 一の場面は、かげが四つだったけど、「たった一つのかげぼうし」のところがちがう。ちいちゃんが一人でかげおくりをしています。 c 「声がふってきました」になっている。空の上から聞こえてきた感じ。 c ちいちゃんが「ふらふら」している。弱っている。 c 一の場面はいっしょに数えたけど、四の場面は「重なって聞こえだしました」になっている。声はちいちゃんにだけ聞こえていると思う。 c 「ふらふらする足」だから、力が出ないのかげおくりをしている。 c 「体がすきとおって…」のところでちいちゃんは死んでしまったと思う。 T 「ちいちゃんは、ふらふらする足を～」の文をノートに視写し、ちいちゃんの心を想像してみましょう。 c お父さんの声だ。 c みんなの声が聞こえる。 c お母さん、会いたかったよ。 c 今まで一人でずっと待ってたんだよ。	○特に、一のかげおくりの場面と似ている記述があるので、比較して読ませたい。 ○机間指導を行い、書き込みを促すとともに、書き込みが進まない児童にはやり方を説明する。 (ノート) (観察) ※場面を比べて、想像したことや考えたことを話し合う。 ※発表するときは、文中の言葉をもとに答えさせるように指導する。 ※友達の発表内容をしっかり聞いて、場面の様子や気持ちを思い浮かべることができるよう心がけさせる。 ○サイドラインを引いた部分から考えたり想像したりしたこともあわせて発表させる。 ○一人でかげおくりをするちいちゃんの様子や気持ちに迫り、ちいちゃんが思い出のかげおくりをしながら死を迎えたことに気付かせる。(ノート)	
			評価【読むこと】 B：家族のことを思うちいちゃんの気持ちを書いている。 (ノート) A：これまで学習したことを生かして、ちいちゃん言葉で気持ちを書いている。 (ノート)	
終末 8分	5 まとめの音読をする。 【一斉】 6 学習の振り返りを行い、次時の予告を聞く。 【個人】	T 場面の様子を思い浮かべながら、工夫して音読しましょう。 T 話合いでためになったことをカードに書きましょう。 T 次は、五の場面とこれまでの場面を比べて読みます。	○特に会話文に気を付けて音読させる。 ○話合いの場面を振り返って、友達の見解でためになったことなどを振り返り、ノートに書かせる。(ノート)	